

『あるってくるぶめーる』は、芸術分野の様々な活動を自主的に企画、運営、支援する市民の非営利組織

である『あるってくるぶ』(Arte club) の活動状況のご報告と今後の予定、他の地域で活動しているグループの情報をお知らせするメディアです。

・・・こんな活動をはじめます、ご参加ください・・・

① あるってくるぶギャラリー

—活動のご報告—

運営、企画に参加する市民みんなのギャラリーです。小さなひと部屋ですが街に向かって大きな窓を持ち、歩道に広がっていくテラスがあります。その気になれば、街全体をギャラリーにしちゃおうってなもんです。もともと場所を提供して下さった三番町ギャラリーは、ご町内の書道家と絵を描くのが好きなオーナーの二人展から始まったギャラリーですから、昼間のギャラリーはご町内の皆さんのがたまり場ですし、夕方ともなればテラスのベンチは携帯電話の若者に独占されたり、この会の発起人の仲間達がビールを持って集まって来て四方山話にうんちくをかたむけたりしていました。そんな市民の目から見たギャラリーがあつてもいいではありませんか。アーティストに与えられて、それに感動しなかったら自分は美術音痴かなど諦めるのではなく、自分達も参加して感動的な展示を作つてみませんか。アーティストの作品はコミュニケーションの手段なのです。アーティストと協働して感動を共有してみませんか。

□12月3日のオープニングパーティーは、雪が降つてもかかわらず、たくさんの方がお集まりくださり「あるってくるぶ」発会を記念して石割りの儀式が行われたり、埼玉県立近代美術館館長の田中さんや川越蔵の会会長の馬場さん、川越市美術館準備室室長の船津さん、教育委員の伊藤さん、今回の井草さん、来年展示を予定している圓城寺さん金子さん藤井さん右城さん（石笛の演奏がありました）百鬼丸さん根岸さん等の作家を囲み楽しいひとときを過ごしました。最後にオークションが行われ、大いに盛り上がり、二次会になだれ込みました。その上、会員もいっせいに10名の入会者がありました。会期中会場を飾るのは会員のお花屋さんが提供して下さったフラワーアレンジですし、会場当番、ご案内のコピー、お茶出しなど、アートボランティアが走り回る会期となりそうです。

—これからスケジュール—

木、金、土、日曜日オープンします。
井草 裕明展「平面・アクリル」12月3日～13日
作家プロフィール
1957年深谷市生まれ
1980年筑波大学芸術専門学群美術専攻卒業
1988年第8回現代日本絵画展・大賞
1989年第24回昭和会展・優秀賞
1990年第8回伊豆美術祭絵画公募展・大賞
等、多数。モダンアート協会会員。入間市在住
パブリック・コレクション：埼玉県立美術館等

圓城寺俊之展「平面」 1999年3月4日～14日
オープニング・ミニコンサートを予定しています
金子 清美展「平面」 1999年4月8日～18日
オープニング・ミニコンサートを予定しています
藤井 龍徳展「インスタレーション」1999年6月
コンセプトは「ふりそそぐ」の予定です
右城 真 展「古楽器製作」 1999年7月中旬
古楽器による演奏を予定しています
百鬼丸 展「切り絵」 1999年9月初旬
根岸 和弘展「平面」 1999年10月下旬
和田 章 展「陶」 1999年11月下旬
たべけんぞう展「立体」 1999年12月中旬
楽しくて、ちょっと悲しいクリスマスの展示です

—これから企画します—
会期末定：コラボレーション・わっぱは
この日は「わらってくるぶ」といいます

会期末定：木彫（立体）
会期末定：インドネシア・バリ島の布と絵画

あるってくるぶ ワークショップ

—活動のご報告—

主婦、生涯学習者、学生、アーティスト、研究者、行政スタッフ、設計者、みんなの共同作業場です。なぜパブリックアートは設置されるのか、どのような町並みが美しい町並みなのか、誰もが住みよいまちづくりとは、陶芸の土はどんな手触りなのか、芸術作品を作つてみよう、誰かがいい写真を撮つて来たようなのでスライドレクチュアします、ソーセージを手作りして食べる会、などいろいろな提案をワークショップでおこないます。

□11月15日（日）蕨山トレッキングは晴天に恵まれ、紅葉も見頃で最高の一 日でした。小学校5年生が参加最少年齢で最高齢は52歳、7名の参加で私たちのグループは一番年齢構成のバラエティーに富んだグループでした。山を歩いているのは中高年のグループが多く、なかには30人ぐらゐのグループもいて、全員黄色のタオルを首に下げていたので、私たちは「黄色いタオルの人達」と呼んでいました。四つ五つぐらゐのグループが前になり、後ろになり歩いて行きます。尾根から遙かに見下ろした谷間のバス道路や家並みはとても幸せそうで、下山途中の尾根から眺めた名栗湖、棒の峰とそれに連なる山々は、入り日に美しく輝いていました。山麓近くの森では立木の盗難と思われる跡が多く、山が少し荒れてきて います。造成林（杉桧）雑木林（松、楓、櫻、山躑躅、栗、橡、朴の木、百日紅）を歩きまわり、雑木林の中の少し広くなっている所でお昼をしましたがメニューは生ハム、ウインナソーセージのフライパン焼き、オムスビ、ぜいたく汁、ホットコーヒー、みかん、のフルコースで（ラ王、から揚げ、こてつちゃん？もあった）楽しみました。しかしながら、やはりふもとのビールと温泉はよかったです。

□11月28日（日）ソーセージを手作りする日は、参加者がすくなかったのですが、参加した方にはよかったです。たっぷりあったので、脇田ビルにお住まいの加藤さん宅のバルコニーで育てられたハーブをたくさん使わせていただき、香りのよいソーセージになりました。参加者の小学校5年生はいつも家ではソーセージを食べない子なのに、みんなで作ったソーセージはおいしそうに食べていました。豚の頭肉を使いますが、70円／100gぐらいなのでご希望があればいつでも一緒に作りましょう。作業時間は一時間ぐらいです。

あるってくるぶ コンサート

—活動のご報告—

演奏家の息づかいが伝わる生の音の感動を 分かち合いましょう！

—これからのスケジュール—

・百鬼丸の切絵教室 三番町ギャラリーにて

12月21日（月）1:00pm～4:00pm

年賀状を切絵で手作りしましょう！

・町づくりは森づくりから、森を見に行こう
と言う視点でのハイキングを行きます。

12月23日（水）または12月26日（土）

候補地：堂平より笠山

あるいは、都内に、“都市や建築を訪ね、語る集い”のTEKU・TEKUと言う活動グループがあり、12月26日（土）に、松戸～中山～津田沼鉄道連隊本部跡や軍事目的で敷設した鉄道の廃線跡を歩く企画がありますので、そちらに合流してもいいかなと考えています。

TEKU・TEKUのご紹介

TEKU・TEKU通信「その90」より

●TEKU・TEKUとは何であるのか？

ご承知の通り、てくてくは、会（サークル）ではなく、活動（イベント）であり、したがつて規則も組織も会員も会費もありません。現在の形ができた時期の紹介文をお読みになれば解るように、都市の現状に対する痛烈な批判と、こうあって欲しい街の姿への熱烈な希求こそが、てくてくを動かすスピリットなのです。そして、毎回の街歩きを楽しみながらこれを手にしようというのが、てくてく独自のスタイルというわけです。

しかし、始まりから8年、私たちは—1990年代とは何だったのか？—に対する答えを見つけ出しています。2000年を前にこのプロセスを避けて過ぎては、街歩きがもたらす大きな贈り物を失うことになります。社会性と娛樂性を合わせ持つという野心的か？な試みは、やはり東の間の夢だったのでしょうそれとも、すばらしい果実を収穫したのでしょうか？来年秋の100回に向けて、一緒に考えていきましょう。

街道ウォーク（12/26）は“幻の鉄道連隊”

集合日時：1998年12月26日（土）13時

集合場所：常磐線・千代田線・新京成電鉄松戸駅

みどりの窓口付近

—これからのスケジュール—

来年7月、古楽器製作者の右城 真さんによる

ヴィオラ・ダ・ガンバの演奏

12月3日のオープニングでは石笛を奏でていた
だきました。

蕨山トレッキング

1998年11月15日

埼玉県入間郡名栗村

